



▲北海道の雄大な大地を走る子育て支援自動車。4人だん子ども同士で遊ぶことの少ない子どもたちにとって、車内での触れ合いは貴重なひととき。

移動子育て支援自動車 (北海道・土幌町)



育児支援の「出前」に走る 北国の子育て支援自動車

広大な町では、都市と子どもたちの交流の場、

北海道帯広市から北へおよそ二語の「シユオロー」(広い土地の名の語源といわれる土幌町は、雄の一角に位置し、じゃがいも、小や畜産の盛んな町です。

広さは約二六〇平方キロ、東京内の面積のほぼ四倍もありますが、か七千人で、うち就学前の子が十五人(十月末現在)と少子化が昨年、この土幌町に全国でも「移動子育て支援自動車」が誕生。「さまざまな問題を抱えて子育てを利用できない家庭や子どもたちとは違う環境の中で機動力をもつ児支援の「出前」を考えたので、土幌町子育て支援センターの松浪月二回は町内十一か所の公民館のみ、二歳の男の子とやって来たお母さんには何もなく、子ども同士で遊ぶほとんどないのでありがたいです、くれました。

昨年七月には有珠山噴火で避難のために、持ち前の機動力を祭支援に出掛け、多くの人々に喜ば、土幌町の冬は長く、寒い日はマにもなりますが、支援車を心待ち、親や子どもたちのためにこの冬も

中士幌おもちゃの図書館

「ぱんぷきん」

中士幌児童ステーションは「軒先から軒先まで」をモットーに、町内全域の就学前の子育て家庭の支援を目的にした子育て支援カーを開発しました。完成と同時に有珠山が噴火し、支援カーの最初の仕事が有珠山被災地の子どもたちの支援活動になりました。その時の支援ボランティアの応募に答えた面々が「ぱん・ぱん・ぱんぷきん」の母体です。

その後、子育て支援カーを使った在宅育児支援活動「かぼちゃの日」と「あそびの宅急便」を実施するうちに、外に出る機会の少ない障害児家庭よりの育児支援の要請が増え、今後の事業の発展を考えたとき、独立した「おもちゃの図書館」の必要性を痛感し、開設するにいたりました。

土幌町は、大規模農業地帯で、広大な地域に小規模へき地保育所、へき地小学校が、それぞれ6か所、6校点在しています。この現状にあって、子育て支援する子育てセンターと児童の健全育成を支援する児童センターは当ステーション1施設しかありません。子育て支援センターにしても児童センターにしても来所する時間的、距離的な制約がついてまわり、決して利用者の側にたった使い勝手のいいものではありませんでした。しかし、土幌町の現実、広大な地域性からくる地理的条件のために来所できない子育て中の親子や児童が多数存在することを示していました。この親子や児童にいかにして、子育て支援、児童支援を届けるかという課題から、様々な子育て機能を整備した日本初の子育て支援カー「ぱんぷきん号」を開発し、こちらからニーズのあるところに向かうという巡回子育て児童支援を開発しました。

活動としては、月に4、5回程度で1回につき4時間ほどの活動です。利用者数は1回につき5～6組(10～12人)であり、ボランティアの数は8名ほどです。おもちゃの図書館を介して人と人との触れ合いを大事にしており、おもちゃの図書館を介して人との輪が広がり、とてもうれしく思っています。

【開館場所】

- ① 中士幌児童ステーション
- ② 移動図書館(バス)

【開館時間・対象】

- ① 月曜日～金曜日
午前9時～17時
中士幌児童ステーション子育て支援センター

② 移動図書館 (バス)

- 第2月曜 個人宅(要予約)
- 第4月曜 各地区公民館前
対象;就学前どなたでも

【最寄駅】

帯広市駅

連絡先

中士幌児童ステーション

01564-7-4446